



学校・地域コーディネーター用



瀬戸市教育委員会

はじめに

未来を担う子どもたちは「地域の宝」です。しかし、少子化核家族化や社会構造の変化などにより、子どもたちが学校や家族以外の大人と関わる機会や地域とのつながりが少なくなっています。

そこで瀬戸市では、学校・家庭・地域が一体となって子どもを育てることを目的とした地域学校協働活動を推進し、子どもたちの生きる力や豊かな心を育むための体制作りを進めています。

多様な地域資源と子どもたちとを橋渡しする、^{※1}地域コーディネーターを配置し、地域ぐるみで効果的に子どもを育む地域学校協働活動を円滑に進めることができるよう、このハンドブックを作成しました。

このハンドブックを参考にして活動していただくことにより、子どもたちや学校、そして地域全体がさらに元気になっていくことを期待しています。

.....

※1 地域学校協働活動推進員を指します。

地域学校協働活動推進員とは、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（第47条の6）※令和2年4月～：第47条の5に基づいた名称です。



目 次

コミュニティ・スクールにおける地域学校協働活動とは・・・	1
地域学校協働活動の効果・・・・・・・・・・・・・・・・	2



学校協働ボランティア編

あなたにもできる！学校協働ボランティア・・・・・・・・	3
活動を始めるにあたって・・・・・・・・・・・・・・・・	4
活動の約束ごと・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	5
よりよい学校協働ボランティアのために・・・・・・・・	6
学校協働ボランティアの活動例・・・・・・・・・・・・	7



学 校 編

「地域とともにある学校づくり」を目指して・・・・・・・・	10
「社会に開かれた教育課程」におけるCSの役割・・・・・・・・	11
CS導入でどんな効果があるのでしょうか・・・・・・・・	12
学校協働ボランティアを導入しましょう・・・・・・・・	13
学校の受け入れ体制を整えましょう・・・・・・・・・・・・	14



地域コーディネーター編

地域コーディネーターの役割・・・・・・・・・・・・・・・・	15
一般的なコーディネートの流れ・・・・・・・・・・・・	16
地域コーディネーターの心得・・・・・・・・・・・・・・	17



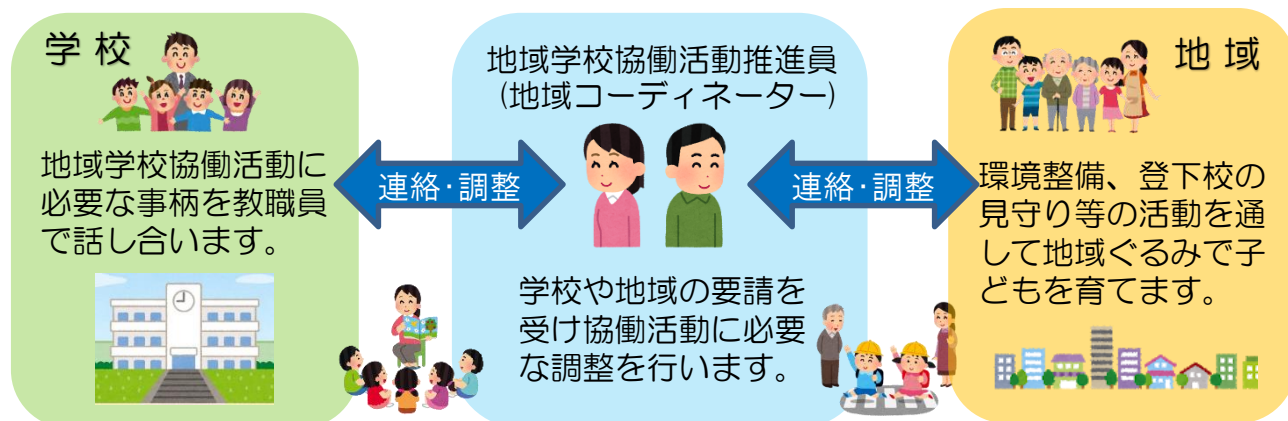
コミュニティ・スクールにおける 地域学校協働活動とは



子どもたちを取り巻く環境や学校が抱える課題は複雑化・多様化しており、教育改革、地方創生等の動向からも、学校と地域の連携・協働の重要性が指摘されています。瀬戸市は「地域とともにある学校づくり」を推進しており、コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）の導入はその一つで、「地域でどのような子どもたちを育てるのか」、「何を実現していくのか」という目標やビジョンを学校と地域住民が共有し、地域学校協働活動に生かすためのゆるやかなネットワークを構築していくことをねらいとしています。

地域学校協働活動は、地域や学校の特色の中でこれまでも行われてきましたが、コーディネート機能を加え、さらに幅広い地域住民や団体等の参画を得るために工夫し、多様な活動、継続的な活動を充実させていくための、学校・家庭・地域が一体となって地域ぐるみで子どもを育てることをねらいとした活動です。

例えば、学校の環境整備や登下校時の見守りなど、社会の変化に対応しながら、地域と学校が協働で活動を進めることによって、地域の方々の経験やその技術を生かす場にもなったり、活動を通して人のつながりも生まれ、地域の教育力も向上します。また、地域学校協働活動は、できる人が、できるときに、できることを自らの意思で主体的に行うことが基本です。





子どもたちにとっては



- 地域のみなさんとの交流により、コミュニケーション力や社会性が育ちます。
- 多世代の知識や経験により、多様な体験の場が増え、子どもたちの学習に対する興味や関心が高まります。
- 周りの人への安心感や感謝の気持ちが芽生え、地域への愛着がさらに深まります。

学校にとっては



- 保護者や地域住民と学校が、顔の見える関係となり、学校の環境整備が進んだり、校内、通学路の安全性が高まります。
- 家庭や地域との連携が一層深まり、社会に開かれた教育課程を充実させていくことができます。
- 学校・家庭・地域の適切な役割分担により、教職員が児童・生徒と向き合う時間の確保につながります。

保護者や地域住民にとっては



- 学校内はもとより、学校外でも子どもたちとあいさつをしたり言葉を交わすようになり、元気がもらえます。
- 身につけている知識や経験を生かせ、地域に貢献しているという満足感が得られます。
- 学校を中心に、多様な地域住民と一緒に活動することにより仲間が増え、生きがいづくりにもつながります。
- 地域の課題解決に向けた取組や、災害時の緊急対応に、地域と学校が一体となって取り組むことができます。





あなたにもできる！ 学校協働ボランティア



学校協働ボランティアは、子どもたちが健やかに育ってほしい、子どもを温かく見守りたい、という気持ちがあれば特別な資格はいりません。

『できる人が、できるときに、できることを自らの意思で主体的に行う』

ことが基本です。保護者の方はもちろん、地域にお住まいの方なら
どなたでも高齢の方や大学生也大歓迎です。



あなたの力を貸してください！



子どもたちの笑顔を見ると元気になります
地域の仲間と
楽しみながら
活動したいです



仕事が休みの
日だけですが
やる気は
あります！

得意なことを
学校や地域で
生かしたい



相談できる
地域の仲間を
作りたいね



子どもが大好きです
趣味や経験を生かして
楽しく活動したいね



地域の伝統技術
を子どもたちに
伝えたい

子どもたちの
見守りが
健康づくりに
つながります



特別な資格は
ありませんが
体力仕事には
自信があります



学校や地域でボランティア
を経験してみたい(大学生)

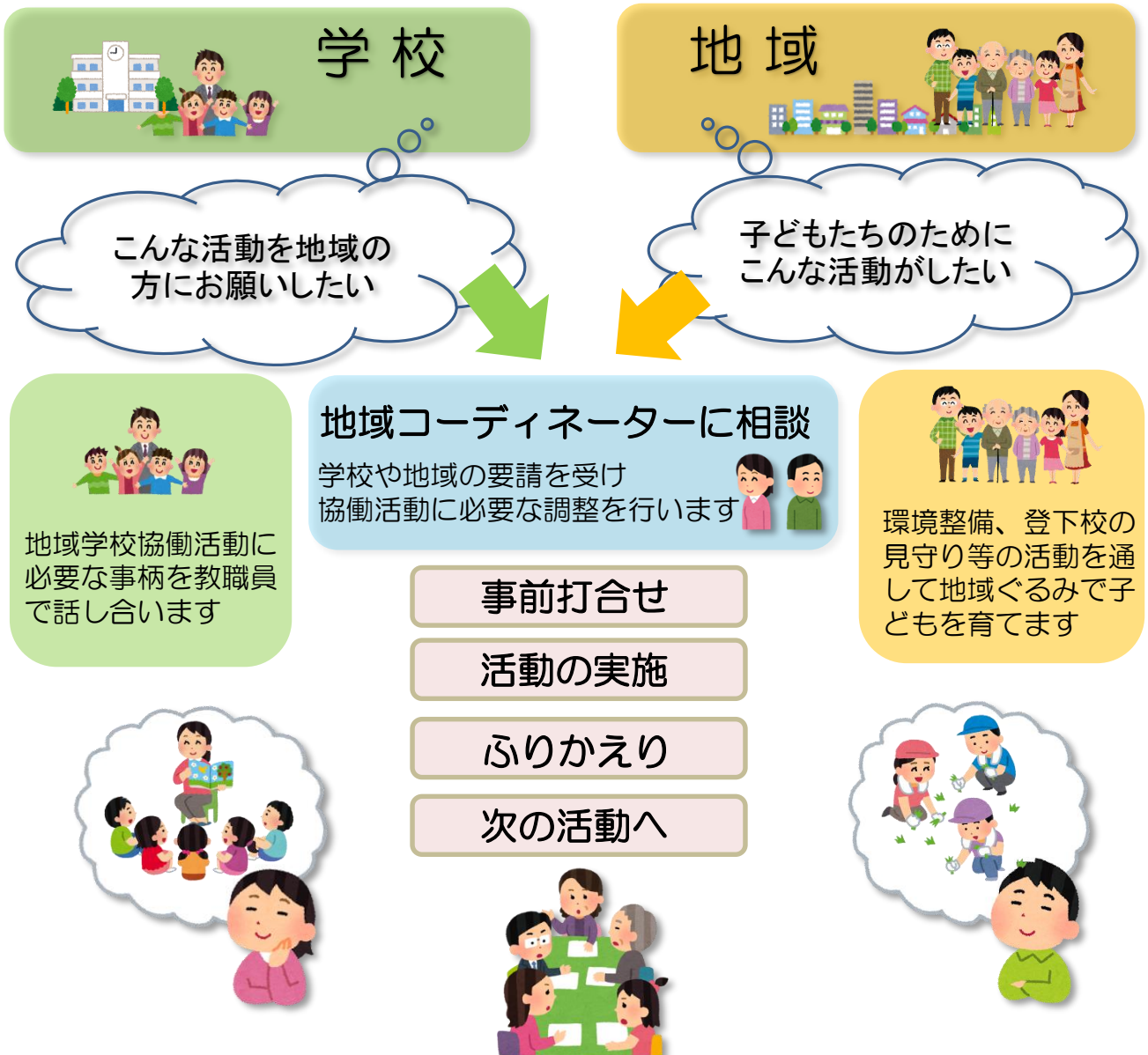


活動を始めるにあたって



- 各学校でボランティア登録をします。
 - ・登録方法は各学校によって違います。各学校にお問い合わせください。
 - ・登録の変更や取り消しはいつでもできます。
- 登録した学校の要請に応じて、約束ごとを確認してから活動します。
- 活動についての日程調整や詳細は、学校に配置されている地域コーディネーターを通して行われます。

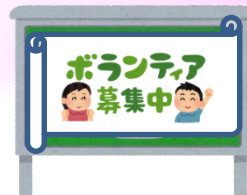
基本的な活動の流れ



活動の約束ごと



子どもたちと触れ合う機会の多い地域学校協働
活動での約束事を確認しておきましょう。



子どもたちとのよりよい接し方

- どの子にも公平に接し、子どもの声にしっかり耳を傾けましょう。
- おおらかな気持ちで接し、子どもたちの良いところをほめましょう。
- 丁寧な言葉遣いで、はっきり、ゆっくりと話すよう心がけましょう。



守らなければならないルールがあります

- ①名札の着用や職員室への声かけなど、学校のルールを事前によく確認し、ルールはしっかりと守りましょう。
- ②活動の中で子どもや先生の個人情報にふれることがあります。子ども一人一人を大切にするために、自分の家族などにも、活動中に知り得た情報はどんな小さなことでも話してはいけません。
- ③学校や先生、他のボランティアの批判などは、子どもの前でも、学校以外でも絶対に話さないようにしましょう。気がついたこと、気になることは、気軽に地域コーディネーターや学校の先生方に伝えましょう。
- ④決められた日課にそって学校での教育は行われます。指定された時間に指定された場所に集まっておくことは当然ですが、決められた時間内に終了することも心がけてください。





相談のすすめ



子どもたちとの関わりの中で、困ったこと、わからないことがあるときには、気軽に地域コーディネーターや担当の先生に相談しましょう。

特に、落ち着きがない子どもや反抗期な子どもなどとの接し方を先生に学ぶことによって、子どもたちとよりよい関係をつくることができます。相談することで、お互いのコミュニケーションも図れます。



事前の打ち合わせ、ふりかえりを大切に

事前の打ち合わせには時間を要しますが、効果的な行動を行うためには欠かせません。学習の流れ、ボランティアの出番（どこで、なにを、どんなふうに、何分くらい）などについて話し合しましょう。

また、活動後のふりかえりも大切です。気づいたことを先生やボランティア同士で共有することによって、次の支援活動がさらに充実します。※打合せ用紙、ふりかえり用紙が作ってあると便利です！！

研修会にどんどん参加しましょう



研修会に積極的に参加して知識を高めたり、交流会などでお互い情報交換をしましょう。県や市町村が主催する講演会、フォーラム、報告会などが開催されます。これらに参加することで、ボランティアをしていく上での新たな知識や技能を得たり、疑問や課題を解決する機会となります。

また、交流会等でお互いの知識や経験を共有することによって、今後の活動に活かすことができます。

学校協働ボランティアの活動例



学校教育活動



読み聞かせ



琴の練習



まめなし学習



田植え体験



お茶会



作陶体験



もちつき体験

安全・見守り活動



登下校見守り



あいさつ運動

環境整備活動



草取り



花壇整備



図書の整理・修理

その他活動



職業講話



マナー講座



森の学習



さつまいもほり



敬老会



うどんづくり







「地域とともにある学校づくり」 を目指して



「地域とともにある学校づくり」を推進するために、コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）の導入を進めています。



●連携・協働

子どもたちを取り巻く環境や学校が抱える課題は複雑化・多様化しており、教育改革、地方創生等の動向からも学校と地域の連携・協働の重要性が指摘されています。

●社会総がかり

子どもや学校の抱える課題の解決、未来を担う子どもたちの豊かな成長のためには社会総掛かりでの教育の実現が不可欠です。

●共有

輝く子どもたちの未来の創造に向けて、学校と地域がパートナーとして連携・協働による取組を進めていくためには、学校と地域住民等が「地域でどのような子どもたちを育てるのか」「何を実現していくのか」という目標やビジョンを共有することが重要です。

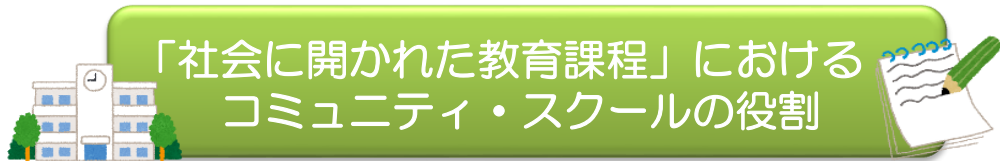
●地域とともにある学校づくり

コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）は、学校と地域住民等が力を合わせて学校の運営に取り組むことが可能となる「地域とともにある学校づくり」への転換を図るための有効な仕組みです。

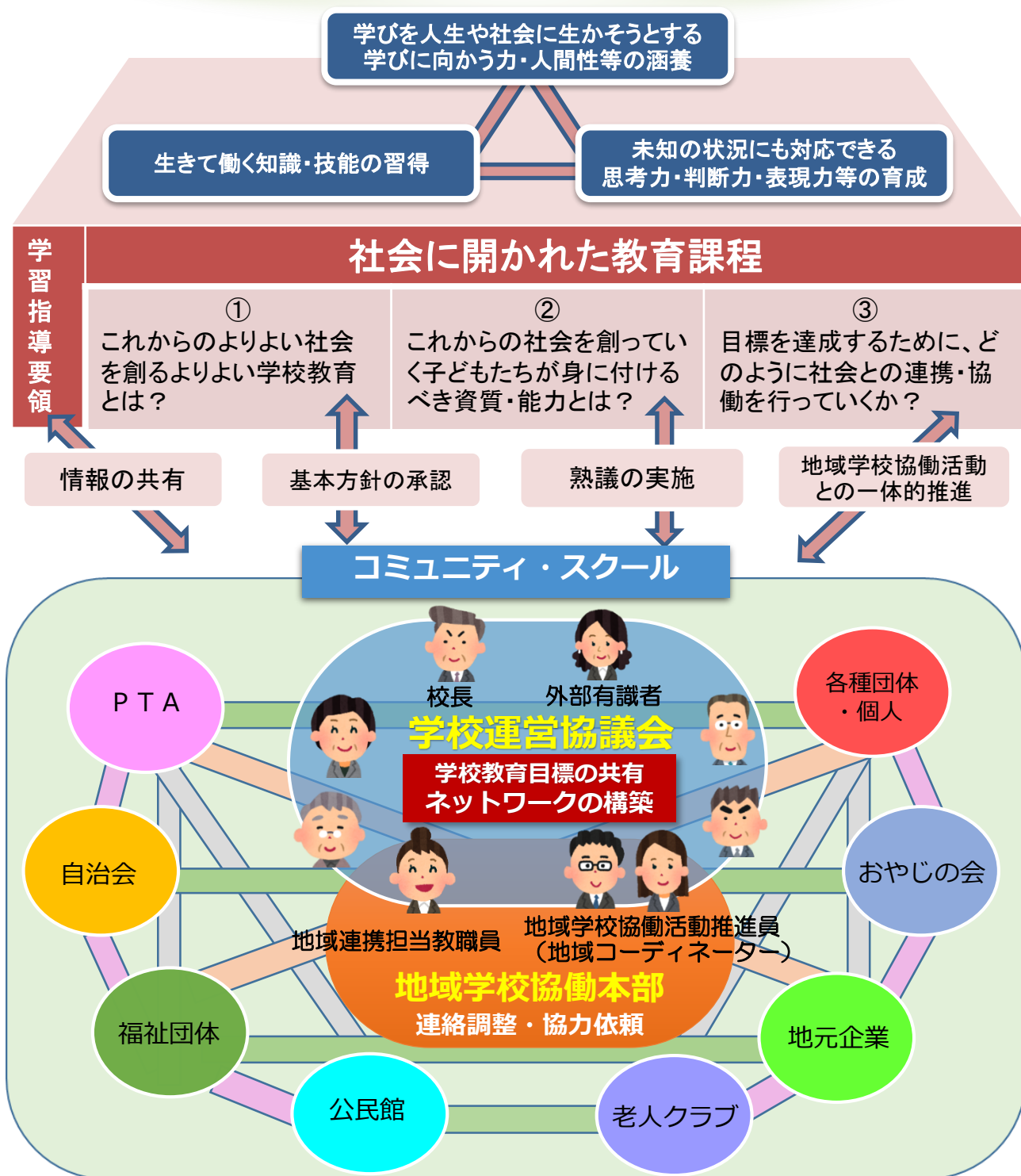
コミュニティ・スクールでは、学校運営に地域の声を積極的に生かし、地域と一体となって特色ある学校づくりを進めていくことができます。

コミュニティ・スクール = 学校運営協議会 を導入した学校





学校として目指すべき教育の在り方を家庭や地域と共有し、連携・協働のもとに教育活動を充実させていくことが求められています。





コミュニティ・スクールを導入することで どんな効果があるのでしょうか・・・



- 保護者・地域住民等も子どもたちの教育の当事者となり、責任感を持って積極的に子どもへの教育に携わることができるようになります。

○お互いに顔がわかる関係になり、地域住民等が子どもたちに積極的に声をかけたり直接助言したりする場面が増加します。

○学校が保護者や地域住民等と一緒に課題等に対する対応策を考え、実行に移すことができます。

○小中一貫教育等の新しい教育方法との組み合わせにより、地域ぐるみで効果的に子どもを育む体制が構築されます。



- 保護者や地域住民等にとって学校運営や教育活動への参画は、自己有用感や生きがいにつながります。更に子どもたちの学びや体験が充実します。

○多くの大人の専門性や地域の力を生かした学校運営や教育活動が実現し、子どもたちに多様な経験を積ませることができます。

○学校が社会的なつながりを得られる場となり、地域のよりどころとなります。

○地域の特性を生かした学びを目標を共有した上で実施することにより、学校での学びがより豊かで広がりを持ちます。



- 保護者や地域住民等と学校が見える関係となり、保護者や地域住民等の理解と協力を得た学校運営が実現します。

○学校の現状や運営方針について理解が深まり、地域住民等が学校の応援団となります。

○学校・家庭・地域の「適切な役割分担」により、教職員が子どもと向き合う時間の確保につながります。



- 地域の課題解決に向けた取組や大規模災害時の緊急対応等に、学校と地域が一体となって取り組むことができます。



「地域の方々と協働できれば、子どもたちのためにもっといろいろなことができるのになぁ…」そんな先生方の思いをかなえてくれるものの一つが学校協働ボランティアです。ボランティアの方々との協働によって、教育活動の幅が広がり、大きな教育効果を生むことができます。

まず、自分の学校でどんな協働ができるのかを考えてみましょう。



さあ、取組をスタートさせましょう！

●教職員の理解

まず、先生方がこの事業について理解することから始まります。
地域の方々とどんな協働ができるのか、全教職員で共通理解しましょう。

○地域学校協働活動の取組を進めると

- ・より専門的、具体的な学習が可能となり、児童生徒の学習意欲、興味・関心を高めることができます。（学力の向上）
- ・下学年の生活支援によって、教員が学級全体の学習・生活指導に集中することができます。（落ち着いた学校生活）
- ・地域のいろいろな方との出会い・ふれあいによって、子どもや先生方と地域の関わりが生まれます。（コミュニケーション能力の向上）



○取組を進めると教員は忙しくなる？

- ・学校・家庭・地域の「適切な役割分担」により、教職員が子どもと向き合う時間の確保につながります。
- ・コミュニティ・スクール導入とともに、各学校内の地域学校協働本部に地域コーディネーターが配置され、学校と地域の調整をお願いすることができます。

「身近な人が学校をよくしようと日々思ってくださっていることを実感できた」
「教職員だけではできない部分（特に環境面）が改善された」

先進事例の感想より



学校の受け入れ体制を整えましょう！



ボランティアを「する人」と「してもらう人」は対等です。
ボランティアのみなさんは、下請屋さんや便利屋さんではありません。
「協働」という言葉でもわかるように、重要なのはパートナーシップと
コミュニケーションであることを忘れないようにしましょう。

地域の方々を全職員で気持ちよく迎えましょう！



●あいさつは基本です

学校内や学校付近で出会う地域の方々に積極的にあいさつしましょう。
あいさつをすることで、相互の安心感が生まれ、コミュニケーションの入り口となります。

●情報の共有を工夫しましょう



学校の教育方針や、校内ルールなどについての情報をできるだけ提供しましょう。学校側から情報を提供することによって、地域からの情報も入ってきます。相互に情報を共有し、理解し合うことが大切です。

○掲示板を利用しましょう

- 相互の情報を、子どもたちや保護者にもわかるように、掲示板を利用することをお勧めします。掲示を地域の方をお願いしている事例もあります。

○学校行事に招待しましょう

- 地域の方に、学校や子供たちの様子を知ってもらうことで、活動の参考にもなり、相互の信頼関係が生まれます。

○研修会に参加しましょう

- ボランティア研修会等の地域向けの研修に教職員が参加することで、意識の共有が図れます。

○子どもたちや保護者に説明しておきましょう

- ボランティアの方々が何のために学校や周辺で活動されているのかを事前に子どもたちや保護者に説明しておきましょう。学校生活が地域の皆さんとの協働によって成り立っていることが理解できるような事前指導も必要です。



地域コーディネーター編





地域コーディネーターの役割



学校と地域をつなぐパイプ役が地域コーディネーターです。
 学校や地域の要請を受けて、地域学校協働活動に必要な調整をします。
 学校と地域をつなぐだけでなく、双方のねらいや想いを受けとめ、
 対等な関係で共に活動を創り上げていくための
 中間的な役割としての関わり方が大切です。

学校と地域との連絡調整をします



学校



連絡・調整

この活動を地域の方に
 お願いしたい

- どんな取組
- どんな人材

5W1H



知る

学校の様子や、地域
 の様子を知ること
 で、関わる人それぞれにメ
 リットのある調整を考
 えることができます。

つなぐ

「ボランティアの応援
 がほしい」という先生と
 「ボランティア活動した
 い」という地域住民をつ
 なぎ、活動が実現するよ
 う調整します。

<地域コーディネーターの仕事>

学校や地域の要請を受け
 協働活動に必要な調整をします

受けとめる

「地域の方にお願いしたい」
 という学校のニーズや、「学校
 に関わる活動をしたい」という
 地域住民の思いををまずは受け
 止めます。また、活動内容の相
 談や活動後の感想等についても
 受け止め、対話のできる関係性
 を大切に、必要に応じてアド
 バイスをします。

連絡・調整

地域



子どもたちのために
 こんな活動がしたい

- どんな活動
- どんな経験

5W1H



知らせる

学校が必要としてい
 るボランティアの情報
 や実際の活動の様子を
 地域に伝えます。

学び合う

ボランティア活動がよ
 りよい活動となるよう、
 研修会等の学ぶ機会があ
 れば、ボランティアに情
 報提供して、参加を働き
 かけましょう。

5W1H 確認に有効な順番

- ① why → なぜ (何のために)
- ② how → どうやって
- ③ who → だれが (何人で)
- ④ what → 何を (どんなことを)
- ⑤ when → いつ (期間・時期)
- ⑥ where → どこで



基本的なコーディネートの流れ



学 校

地 域



ボランティア活動の周知⇒募集・登録



学校からの活動依頼

地域からの活動依頼

学校へ依頼



協働ボランティアへ依頼

活動内容の擦りあわせ
ボランティアの紹介
(氏名、連絡先など)等

活動内容の擦りあわせ
学校活動の紹介
(ねらい、日程など)等



事前打合せ会の日程調整

事前打合せの実施

5W1Hの確認
活動上の配慮、注意事項の確認



活動の実施

ふりかえり



次の活動へ





地域コーディネーターの心得



一番大切なのは、コミュニケーションです
地域学校協働活動は一方通行ではありません。
お互いに学び合い支え合う、双方向の協働活動です。
一人一人が思いを分かち合える活動になるように心がけましょう。

●「協働」の理解を深めましょう！

○関わる人すべてにメリットがある活動にしましょう。

- ・地域と学校の両者が対等に話し合えるように工夫しましょう。
- ・地域と学校が対等になって、はじめて「協働」が生まれます。



○学校活動を妨げてはいけません。

- ・学校を訪れる方の中には「今の教育はけしからん、教員は何をやっている、自分が代わりに子どもたちに教える」という意識の強い人もいます。このような考えのもとでは、地域と学校の連携・協働の体制づくりは困難になります。教員は教育の専門家です。コーディネーターは日々の学校活動を妨げることをしないよう努めることが重要です。

○スムーズな対話のできる関係を作りましょう。

- ・コーディネーターとして大切なことは、「何を知っているか」よりも、「だれを知っているか」です。学校の先生や地域の方々と知り合いになり、笑顔で話し合える良い関係を築いていきましょう。
- ・活動を進める中で課題に直面することがあります。よりよい活動をするために、課題をきちんと両者に伝え、それぞれが共に改善策を考えましょう。

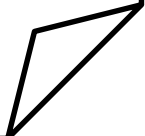
○正しい情報を得るために情報交換をしましょう。

- ・「報・連・相」は信頼関係を築くためのコミュニケーションの基本です。報告、連絡、相談は常に実行しましょう。
- ・インターネットやSNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）の情報がすべて正しいとは限りません。聞きかじりの情報を他者に伝えることのないよう、正しい情報なのかを確認することが大切です。

○次の活動につながるよう、活動後に言葉かけをしましょう。

- ・活動に関わった人に言葉かけをすることは、コーディネーターとして大切な役目です。助言するとともに前向きな言葉で明るい活動になるよう心がけましょう。

MEMO





地域学校



実践ハンドブック

学校・地域コーディネーター用

瀬戸市役所教育部学校教育課
〒489-8701 瀬戸市追分町64番地の1
問合せ 0561-88-2760